第 20 回文学部歴史学科公開講座　開催報告
「聖人・君主の身体保存と聖遺物崇拝の諸相」

人類は偶然にも古今東西において身体（肉体）と精神（魂）の永遠性を希求し、とくに身体を保存するための様々な方法を考案してきました。また、聖人・君主の崇高なる精神を象徴する遺体やその一部である遺骨、毛髪、あるいは着衣などをしばしば崇拝の対象としてきました。今回はその歴史と文化について、日本における古代エジプトミイラ研究の第一人者である辻村純代氏の講義を皮切りに、以下年代順に本学歴史学科の歴史学・考古学・民俗学分野の教員が、「中国漢代の死生観と玉衣」、「古代・中世のキリスト教世界における聖遺物崇拝」、「古代東アジアにおける仏教文化と舎利信仰」、「平泉の浄土思想と奥州藤原氏三代の身体保存」、「出羽三山に代表される即身仏」をテーマとしてお話しいたします。

第 1 回 6/10（土）
「古代エジプトの死生観とミイラ作り」
辻村純代氏（国士舘大学イラク古代文化研究所共同研究員）

第 2 回 6/14（水）
「玉衣から尸解仙へ：あるいは肉体の永遠性に対する中国人の異常な執着をめぐって」
下倉　渉（本学文学部教授）

第 3 回 6/21（水）
「聖遺物と移葬：古代・中世キリスト教世界における聖人崇拝の諸相」
櫻井康人（本学文学部教授）

第 4 回 6/28（水）
「考古学からみた仏教東漸と舎利信仰の諸相」
佐川正敏（本学文学部教授）

第 5 回 7/5（水）
「平泉における中尊寺金色堂の位置づけと仏教文化の展開」
七海雅人（本学文学部教授）

第 6 回 7/12（水）
「日本の即身仏をめぐる民俗学的課題」
政岡伸洋（本学文学部教授）